令和３年度西脇市就学前教育・保育の質の向上推進委員会　報告書

園名（　西脇こども園　）

	内容
教育課程の編成	西脇市就学前教育、保育カリキュラム及びこども園の理念、保育の方針や目標に基づき、園の実態に応じた教育課程を編成している。
	本事業を通して、保育内容・方法・環境の自己評価と改善のサイクルの意義が浸透してきています。 日々の保育において保育者が提供する意図的な活動や園児が自分で選択しながら自分なりの遊びの世界を広げていく自由遊び、これらのバランスが大切ですが特に後者の自由遊びを支える保育環境の工夫が見られます。視察訪問においても、全員で同じ学びを共通理解していけるように、各クラス・学年だけでなく、学びの機会を保障されるなど本事業の意義を捉え、参画されています。自己評価の記入にあたっても、各クラスで「〇意識して取り組んだ所」「☆チャレンジ・頑張りたい所」「取組の状況」等について、自クラスの良さと課題を捉えて改善していこうという意識が高まってきています。 視察訪問を通して乳児クラスにおいては、広い保育室の空間の中をうまく活用して、発達に合わせた遊びができるように玩具等の遊びのための環境が整備されています。その中で、養護（情緒の安定）を基盤とした保育を大事に実践されていることが伝わってきました。幼児クラスでは、各クラスの自由遊びの様子を見せていただきましたが、各クラスの保育環境を通して園児自身が主体的に遊びを進めている様子が見て取れました。 今後に向けては、例えば「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の実践的な理解として「自園での10の姿の可視化、資質・能力の育ちの可視化などを園児の遊びや活動の写真やドキュメンテーションを活用する」「保育内容の５領域についての自己評価にあたり、より多面的な視点で検討するために〇、☆、★を項目すべてにつける」等の取組を行う中で、一人一人の保育者の資質向上がさらに期待できる。そのように園児の姿や日々の保育についての評価と改善のサイクルを回していく次のステージを目指していくとよいと思われます。

安全管理・防災教育	毎月の安全点検は、全園舎遊具の担当を決めて点検表をもとに行い、管理職が確認し対応している。避難訓練は月１回行い、事前に職員の動きや役割を話し、確認を行うとともに、訓練終了後は反省を出し合い、次回の訓練に役立たせている。
家庭・地域との連携	休日・病児・延長保育等、保護者のニーズに対応するとともに、在宅児の子育て支援(ピノキオランド)の充実を図っている。保護者には、日々の送迎時やネット配信等で園の様子を伝え、相互理解を図っている。コロナ禍での新たな行事のあり方を検討し、園児も保護者も満足感が得られるようにしている。
職員の資質の向上	多くの職員が研修に参加できるように、勤務体制を整え、一人一人が研修を通して、保育の質を高め園の一員として役割を果たせるようにしている。また、保育者間で、保育内容や園児の様子等エピソードを交えながら意見を交換し合い、保育の改善・専門性の向上に努めている。
園小の連携	コロナ禍の中、園児と児童の交流はなかなかできないが、小学校教員との合同研修会への参加や、日頃からの小学校との連携による情報収集に積極的で、その中で得た情報を保育へ取り入れている。卒園後、様々な小学校へ進学することにも配慮し、保護者の安心へつなげている。
食育・アレルギー対応	毎月の給食委員会での情報交換や研修に参加した知識を生かし、常に見直しや改善を心がけている。アレルギー疾患児への懇談は看護師と栄養士も加わって一緒に情報共有をし、送迎時やメールでの情報をもとに園児一人一人の健康状態をしっかり把握できるよう努めている。
関係者評価の取り組み	他者からの評価内容や情報に対して、しっかりと話し合い、その内容を次につなげていけるよう努めている。

令和３年度西脇市就学前教育・保育の質の向上推進委員会　報告書

園名（　比延こども園　）

	内容
教育課程の編成	今年度、職員研修テーマを「月案の見直し」とし、園の状況や０～５歳児の発達段階や応じた５領域・養護の内容の検討を進めている。幼児教育センター現場訪問では、保育参観とともに指導案の相談・協議を定期的に行うことで、園全体の理解を深めている。
	園児の表現力の伸長と情緒の安定を基盤とした保育が行われ、とりわけ造形活動については、園児の肯定的な評価をもとにした個別の関わりを重視しており、主体的な側面が伸ばされている。園全体として、一人一人に目を向けた保育が行われていると言える。保育者の良さを生かしながら協力して保育が進められており、良い雰囲気の中で園運営がなされている。 乳児については、発達に即した教材やおもちゃの配置が工夫されている。テラスや園庭、保育室の空間を生かすために、試行錯誤や改善が検討されており今後に期待がもてる。部屋の仕切りは園児の動線を考えて作られており、前期視察訪問の時よりも生活しやすくなっている。制作の素材や視覚的な支援についても、年齢ごとに工夫がなされ、質が高まっている。 幼児については、造形活動が盛んに行われており、園児が楽しんで制作に取り組んでいる。存分な量の素材を用いてダイナミックに立体・平面の制作に取り組むとともに、年度後半には自分たちでアイデアを出し合いながら一つのことに取り組む活動が増えてきている。また、園児の興味関心から発展した遊びや活動について、保育者がドキュメンテーションにまとめ掲示している。このような保育の見える化により、保護者の理解も深まっているのではと考えられる。 全体として、造形表現については充実しており、園児の生活が豊かなものになっていると思われる。一方で、園児一人一人の言葉による表現を伸ばしたり引き出したりできる保育、個々の特性や環境に応じた適切な関わりについて、継続して努力していただきたい。保育内容や環境の端々に工夫や努力が見られており、これまでの積み重ねから、更に改善を図ることができると考えられ、これからの質の向上に期待がもてる。

安全管理・防災教育	安全点検や避難訓練は、毎月１回実施することで、危機管理意識の向上に努めている。新型コロナウイルス感染拡大のため、関係機関と連携した取組は難しいが、避難訓練等、年間計画に基づき実施している。
家庭・地域との連携	感染予防対策や観覧者の検討等、工夫した園行事を実施している。保護者に日頃の様子を丁寧に伝えるとともに、クラスのドキュメンテーションやお便り等も活用し、保護者が安心できるように努めている。園外保育は、地域との連携も視野に入れて計画的に進めているが、今後もコロナ禍の状況に応じながら取り組んでいく。
職員の資質の向上	一人一人が専門性をもち、職員全体の一員としての役割をしっかり担っていけるよう、相談しながら園行事の分担を行っている。保育者一人一人の良さを生かし工夫した取組を進めている。年間計画をもとに、積極的に研修会に参加し、定期的に研修報告会を実施することで、園内で共有・保育理解を深める機会を作っている。
園小の連携	比延地区の特徴として、地域に開かれた取組が実践され、積極的に中学校区連携事業に参画して進めようとしている。小学校からの保育参観や園児の情報交換を適宜実施していることが、円滑な接続につながっている。また情報交換の中で得たことを保育に生かし、運動会に子どもたちの自主性を取り入れる等、連携に努めている。
食育・アレルギー対応	食物アレルギー疾患児に対する給食やおやつ等の提供は、事故がないよう給食室や保育者と連携し対応している。新型コロナウイルス・ノロウイルス等の感染予防、食中毒予防対策として、調理場や水周り等の衛生管理・自己管理の徹底を行っている。
関係者評価の取り組み	行事毎に保護者の感想の集約をしたり、保護者会役員による評価を実施した結果を全家庭に配付したりするとともに、ＨＰにも掲載した。評価をもとに、本年度に新たな取組を進めている。

令和３年度西脇市就学前教育・保育の質の向上推進委員会　報告書

園名（　どれみこども園　）

	内容
教育課程の編成	園児の心身の発達や家庭及び地域の実態に応じた教育課程を編成するために、公開保育の助言や幼児教育センター現場訪問を生かした月週案や日案を立て、園全体で子どもたちの成長・発達の見通しがもてるカリキュラムづくりに取り組んでいる。
	本事業を通して、保育内容・方法・環境の自己評価と改善のサイクルの意義の理解が進んできています。 自己評価の記入にあたり、各学年とも園児やクラスの実態を踏まえて、全項目において的確な視点で〇、☆、★を記入している。また、前期実施状況と後期実施状況を比べてみると、良さをより強みとして生かしたり、新たな課題に気づいたりして、自己評価と改善のサイクルが適切に回っていることが感じられる。 日々の保育において保育者が提供する意図的な活動と、園児が自分で選択しながら自分なりの遊びの世界を広げていく自由遊びのバランスが大切です。特に、後者の自由遊びを支える保育環境を工夫していこうとする意欲の高まりを感じました。一日の生活の大半の時間を過ごす保育室において、そこで園児がどのような遊びや活動を進めていくかは、保育室にどのような環境があるかどうか、どのようにその場・コーナーを用意しているかによって違ってきます。いずれのクラスも既製品の玩具だけではなく、発達や遊び・活動の内容に応じた手作りの環境を工夫しようとされていました。また、幼児クラスでは園児の遊びや活動の継続性を感じられる保育の展開や環境が考えられていました。 今後に向けては、園児の自由遊びの保育環境の充実に向けて、ままごとやブロックなどの遊びや砂場遊びなど何気ない園児の遊びの様子を写真に撮り、それを活用した園内研修を実施するとよいと思われます。その中で遊びの理解を深めたり、その遊びが継続し発展していけるような環境や関わりについて園全体で考えたりしていく等、次のステージを目指していくとよいと思われます。

安全管理・防災教育	毎月当番制で全遊具の点検を行い、会議で報告し、修理や改善できる体制をとっている。年間計画に添って訓練を行い、訓練後は適時相談し、改善を図っている。避難経路の見直しを行い、想定によっては、計画表以外の場所への避難もしていく。
家庭・地域との連携	総会や講演会等が紙面開催となっているが、保護者や役員とこまめに連絡・連携を図っている。複数担任制にし、子育て経験者やベテランの職員を配置することで、保護者の子育て不安にも気軽に相談できるようにしている。主幹や園長も温かく対応するとともに、状況に応じて市の関連機関とも連携を図っていく。
職員の資質の向上	全職員参加の幼児教育研修（公開保育）や多くの職員が参加できるリモート研修により、園全体で保育について話し合い、共通理解を図る機会が増えている。また、日々の保育日誌や月案の作成の中で、保育の振り返りを行い、改善点や、感染予防の注意点等も考慮するとともに、気になることについては、一人で悩まず、主幹や園長等が相談できるようにしている。
園小の連携	小学校への就学に向けて、５歳児は自分の思いを相手に言えるようにグループ活動を取り入れ、活動の振り返りや話し合いに力を入れている。コロナ禍で交流はできていないが、近隣の小学校と子どもたちの様子や園での取組を伝え、情報交換を行っている。そうすることで、園児が戸惑いなく小学校生活を送ることができるように努めている。
食育・アレルギー対応	食物アレルギー対応マニュアルを作成し、全職員に周知徹底を図っている。アレルギー疾患児には、主治医からの指示書を元に、園長・主幹・調理師・保護者等で話し合いの場をもち共通理解を図っている。給食検討会では、園児が食べにくかったメニューについて大きさや味付け等の見直しを図っている。
関係者評価の取り組み	保護者アンケートを実施（Ｒ４．１）他者からの評価は受けていないので、今後検討していく。

令和３年度西脇市就学前教育・保育の質の向上推進委員会　報告書

園名（　日野こども園　）

	内容
教育課程の編成	体験活動を大切に、集団生活の中で自立する基盤を培い、心身ともに健全で感性豊かな子を育むため、西脇市の就学前教育・保育カリキュラムをもとに教育課程を編成している。
	初年度の資料の記載の仕方と令和３年度の記載の違いから、一人一人の保育者が園児の姿を思い浮かべながら、一つ一つの事柄に丁寧に分析をしようとしている様子が伺えた。今年度の訪問では、園長が「真心を込めて保育をしている」とおっしゃったように、保育者一人一人が園長と同じ気持ちで保育をしていることが分かった。 今年度はドキュメンテーションや親への発信について重点的に保育していることもあり、ドキュメンテーションは目にする場所に掲示されていて、訪問時にも保護者が立ち止まって見る姿があった。また、おもちゃの多くを手作りしてあり、園児に合ったサイズ感や遊びたい気持ちを満たせるよう、園全体で工夫して取り組んでいることを感じ取ることができた。 低年齢の保育室では、家具等の配置で苦労されているところやコンセントの位置や仕切りとして使っている家具により、よりよい保育室の使い方ができにくい課題も見られたが、そのことを保育者が理解した上で環境構成についての検討を繰り返していることがよく分かった。 幼児クラスでは複数クラス間での保育環境の違いから、学年間で学びに差ができるかもしれない事項があり、前期訪問時に助言した。それを受けて、後期訪問時には改善するだけでなく更検討をして、他学年にも広げようという動きが見られた。 保育者の良い関わりが園児の育ちに繋がっているので、今後は、園児の考える力を引き出すという活動を意識して取り入れていくといいのではと感じる。全体的に、保育者が保育について「一度やってみる」「一度皆で考えてみる」という風土があり、外部組織が入らなくても、職場内での好循環が常に生み出されていた。

安全管理・防災教育	月に１～２回、地震や火災・不審者対応・水害等避難訓練を行う。時間帯や出火場所等様々な場面を想定しながら訓練を行うとともに、評価・課題を出し合い次に活かしている。また、ヒヤリハット事例の情報を収集し、職員会などで報告し共通理解することで同じようなことが起きないようにしている。
家庭・地域との連携	保護者に向けて、おたよりやよい子ネット、ドキュメンテーション等で園の取組を伝え、情報を共有できるようにしている。保護者に寄り添う姿勢を大切にしながら、家庭や園での気になることや悩みを聞き、一緒に解決策を考え、必要に応じて専門機関へ相談できるようにしている。保護者からの意見や要望は、その都度検討し、改善点につながるよう取り組んでいる。
職員の資質の向上	今年度は特に、物的環境・人的環境等子どもを取り巻く環境に視点をおき、園内研修を行っている。具体的取組の評価とともに、子どもの心の育ちはどうかという面も考え、PDCAサイクルを実践している。研修で学んだことを日々の保育に取り入れたり、職員間で気づいたことや改善点等を話し合ったりすることで、園児に対する言葉かけや対応の在り方を一人一人が意識していけるようにしている。
園小の連携	５歳児で文字や量に興味がもてる保育をする等、連携を意識した取組に積極的である。小学校の教員が来園し、保育の見学をして小学校生活への円滑な接続に生かすとともに、３月には、引継ぎをして職員の連携に努めている。子どもを温かく見守り、保護者の要望に対して細かく対応されていることも、小学校にしっかり引き継がれている。
食育・アレルギー対応	アレルギー疾患児には、主治医からの生活管理指導書をもとに保護者と面談し、誤食の無いよう個別トレーやカラーの食器で対応している。離乳食も保護者と面談し、刻みや量等発達に合わせて調整・対応をしている。食中毒が発生しない環境作り、中心温度の測定、シンクの拭き上げ等衛生管理を徹底している。毎月、給食会議をし、献立の見直しや改善をしている。
関係者評価の取り組み	日頃から保護者への声かけを大切にするとともに、保護者会で意見や要望を聞き、その中で保育や教育に対しての評価や意見を職員と検討し、課題解決に努めている。

令和３年度西脇市就学前教育・保育の質の向上推進委員会　報告書

園名（　かすがこども園　）

	内容
教育課程の編成	西脇市就学前教育・保育カリキュラム、自園の理念や方針、目標に基づき、園児一人一人の心身の発達や家庭環境をしっかりと把握し、個々の成長・発達に応じた教育・保育を進めている。
	令和元年度の園提出の資料を見ると、初期の段階からかなり具体的な保育に対する検討が行われていたことが伺えた。令和３年度の内容も具体的にかつ的確であり、若手保育者が多い園だが、保育者一人一人の保育に対する熱心な心持ちを見ることができた。 乳児クラスでは、かみつきや手が出ることについての相談があったが、訪問時には、園児の実態に応じた保育者の関わりや環境の工夫が多く見られたので、今後更に保育のアンテナを張りながら園児が満足できるような遊びや言葉がけの工夫に期待する。 幼児クラスは、前期訪問ではお医者さんやレストランごっこ、後期訪問ではままごと遊びをしていましたが、前期から後期にかけて、素材や材料の大きさや量の検討、既成のおもちゃから自分たちで作れる素材への工夫等、園児の遊びが発展していくための試行錯誤が見られました。保育環境への気づきや改善の意識も高く、担任保育者の思いをもった取組や、保育者自身の固定概念を取り払った保育が保育改善につながるのだと感じた。また、各保育者の持ち味を生かした保育がなされていて、同じ学年・同じ活動内容でも、担任の良さやオリジナリティがあると感じた。 職員間の園児や保育についての情報共有、園内研修や会議における研修報告等をしっかり行うことで、保育者同士の質の向上が図られている。園児に対して、精一杯保育活動の中から楽しめるような工夫や学びに繋がる保育を考え、保育内容を工夫している姿が見られる。今は、クラス運営や支援を必要とする園児への対応等に精一杯で悩んでいる保育者も、試行錯誤しながら前向きに保育を進めているので、園での保育経験が一年増えるごとに、ゆとりが生まれ、自身の視野も広がっていき、保育が楽しいと思える段階に近づくのではないか。今後の保育にますます期待がもてる。

安全管理・防災教育	担当者が月１回安全点検を行い、必要な改善を行うとともに、園児の安心・安全を守るという各職員の安全意識を高めている。毎月１回、火災・地震・防犯等の訓練を実施し、事前に役割分担を決め、把握するとともに、避難の様子や職員の動き等を振り返ることで次へと活かしている。
家庭・地域との連携	コロナ禍における社会情勢の変化に対応しながら、園の方針を便りやメール・ドキュメンテーション等、適宜情報提供や発信をしている。保護者との関わりを通して実態を把握するとともに、担任だけでなく園長や主幹・副主幹等が、保護者の悩みに耳を傾け、寄りそえる体制を整えている。必要に応じて、市の関連機関とも連携している。
職員の資質の向上	ドキュメンテーションを活用した研修や、経験年数に応じたグループで保育を参観し合う中で、10の姿を視点とした保育の振り返りや意見交換を行い、保育の質の向上に努めている。また、全職員が西脇市内の研修に積極的に参加し会議で報告することで、情報共有や自分の保育に生かせるようにしている。
園小の連携	就学へ向けて育てておきたい内容が職員間で共有され、着実に積み上げられている。小学校職員との情報交換や、園児の現状を積極的に見てもらえる機会をもつことで、円滑な接続に努めている。小学校での教育を意識して、子どもたちの話し合いを大切にし、ドキュメンテーションにも熱心に取り組んでいる。
食育・アレルギー対応	アレルギー疾患児には、主治医の診断をもとに除去食を実施するとともに、誤食のないように食器の色やアレルギーカード等の対策をしている。調理場は常に衛生的に保ち、調理器具の熱湯・次亜塩素消毒の徹底や検便・検食・保存食を実施し体制を整えている。過不足栄養素の改善や、残食の多い献立を見直しも定期的に行っている。
関係者評価の取り組み	昨年度同様、園の評議委員会や保護者会役員へのアンケート調査を行うことで見えてくる課題を把握し、次年度につなげている。

令和３年度西脇市就学前教育・保育の質の向上推進委員会　報告書

園名（　つまこども園　）

	内容
教育課程の編成	毎月、カリキュラム検討委員会を実施し、５領域や10の姿を具現化する方法やドキュメンテーションを活用した子ども理解等、幼児理解を深める園内研修を継続して行っている。
	令和元年度の資料の時点で保育に対する考え方や困り感等、具体的にかつ丁寧に記載がなされていた。この３年間で保育内容を振り返るとともに、文章化することによって、実態や課題を理解し、園全体で共有する・学年ごとで相談する・あるいは主幹と担任で解決する等、保育のあり方について細やかに検討が続けられていたということが伺えた。 乳児クラスの中には外国籍の園児がいて、園児に対する保育的な関わりや保護者に対する保育者からの支援だけではなく、保護者同士がつながることができるように、ドキュメンテーションに工夫が凝らしてあった。一人一人に応じた乳児ならではの丁寧な関わりを感じられた。また、前期視察訪問で助言した、乳児の安心した生活・睡眠を促す保育環境についても早速の改善が見られた。 幼児クラスでも、担任保育者の園児に対する思い、保育を通して様々な経験をさせたいという思いがしっかりと感じられた。保育室の前にはドキュメンテーションが掲示され、園児も日々目にすることができた。上の学年にあがるにつれ、保育室が奥になる作りなので、異年齢の園児交流、特に４歳児が５歳児の保育の様子を見る機会や交流がもてる保育内容を工夫できるよう考えてみると、担任が目指す子ども像に近づくのではないかと伝えた。 前期視察訪問では、５歳児が作るドキュメンテーションについて提案したところ、早速実践されていた。小学校でも児童がタブレットを１台持つようになり、タブレットで写真を撮ったり、自宅で撮った動画を課題として提出したりするという、小学校での課題を視野に入れたチャレンジの一つとして、小学校での学びも視野に入れた高いレベルの保育がなされていた。

安全管理・防災教育	毎月安全点検を実施し、園長に報告・改善を行うとともに、研修やニュース等で聞いた園の事故を参考にどこに視点をおいて点検すればよいかを職員間で再確認し、安全管理の徹底に努めている。コロナ禍における避難訓練の実施は制限があるが、密にならない工夫をしながら担当者が内容を計画、実施している。
家庭・地域との連携	コロナ禍でも、保護者に園の生活が分かるよう、学級通信や園だより、掲示坂等工夫・充実させている。子育て応援事業や保護者から子育てに関する相談等があれば、その都度、担任や主任、グループリーダー等が話を聞く場を設け、保護者の思いをしっかりと聞きながら、一緒に考えられるようにしている。
職員の資質の向上	コロナ禍ではあるが、可能な研修には積極的に参加し、保育の専門職として質の向上に努めている。参加した研修は、資料を回覧、職員会議で報告する等発信し情報共有を行っている。定期的にドキュメンテーションを活用した研修を行い、自分の保育についての振り返りをしたり、他の職員の意見を聞いたりして、保育の改善や専門性の向上に努めている。
園小の連携	８月中旬に小学校の職員との交流の場を設け、保育の様子も見学してもらって情報交換をすることで、スムーズな接続に努めている。常に幼児期に育てたい10 の姿をめざした保育が、ドキュメンテーションで掲示されることで、小学校での教育とのつながりが視覚化されて、保護者の啓発にもなっている。
食育・アレルギー対応	新入園児に対して、保護者と事前に園児の嗜好やアレルギー等を聞き、安全に食事が提供できるようにしている。特に、食物アレルギー疾患児の保護者とは生活管理指導表を基に面談を行い、一人一人に合った食事提供ができるようにしている。月１回の給食検討会では、栄養士、調理師と各クラスの食事の様子や、改善点について話し合うようにしている。
関係者評価の取り組み	運動会、オープン教育・保育実施後、保護者アンケートを実施し、その結果を振り返り、次への課題について検討するとともに、保護者にも報告している。

令和３年度西脇市就学前教育・保育の質の向上推進委員会　報告書

園名（　芳田こども園　）

	内容
教育課程の編成	公開保育の助言を生かした保育環境や、園児の主体性を大切にした保育者の関わり方等の視点を深めるとともに、園児の成長に応じたドキュメンテーションを作成し、西脇市のカリキュラムをもとに園独自の保育を充実できるよう、教育課程を編成している。
	自然環境を生かし、植栽の栽培や小動物などの飼育を通して、園児の興味関心に沿った保育がなされている。保育室の環境を整備しようとする意欲が旺盛で、保育者同士相談しながら園児の活動が楽しくなるような雰囲気作りを努力されている。活動の振り返りや園児同士が相談する機会を多く設け、試行錯誤しながら保育を進めている様子が窺える。 乳児については、当初一斉に活動する場面が多かったが、環境の改善が図られた結果として、園児が主体的に遊ぶ姿が多く見られるようになるとともに、おもちゃやコーナーの設定が工夫され、没頭して遊べるような空間へと変わっていった。自分たちで遊びたいと思えるおもちゃやコーナーを選択し、遊び込めるようになってきたといえる。 幼児については、部屋のあちこちにドキュメンテーションが掲示され、生き物に触れる活動が豊かに行われていることが分かる。また、振り返ったり話し合ったりする活動が増え、園児が自分の意見を言える場が提供されている。表現にとまどったり、意見がぶつかりあったりすることがあるものの、自分の考えを主張したり、遊びを創っていきたいと考えて活動したりする姿が増えてきた。みんなで考えて何か一つの遊びを創造していくような活動が見られ、今後の発展が期待できる。 ２回の訪問を経て、保育者による工夫や改善の成果が見られ、園児にとって豊かな保育環境が実現したのではないかと思われる。これからの課題として、一人一人に寄り添った関わりをより一層深めるとともに、園児同士がお互いのことを聞き合ったり、折り合いをつけたり他者の存在を意識しながら協働して遊びや生活を創り上げるような保育を目指していただきたい。

安全管理・防災教育	定期的な点検を行うとともに、職員会議で職員が現状を把握している。コロナ対策では、換気扇交換や機器の充実、消毒等衛生面に配慮するとともに、園児の健康管理に努めている。定期的な避難訓練はコロナ感染症のため十分に行うことはできなかったが、職員間の役割について確認をし、次に生かせるようにしている。
家庭・地域との連携	園での様子を家庭に伝えるとともに、連絡帳やお便りを活用し情報交換に努めている。ドキュメンテーションを玄関に掲示することで、保護者が園の取組を身近に感じ、園児が何に興味をもっているか、又何が育っているのか等、理解を得る工夫をしている。保護者からの子育て相談に温かく応じ、個別の面談や子どもの現状に応じ関係機関との連携を図っている。
職員の資質の向上	公開保育の経験や園内研修を積み重ねる中で、子どものよい所を見つけ、伝える場面や保育を振り返り次への手立て(支援)を考える機会等、日々の保育をクラス担当が話し合うことが日常化している。また、保育者それぞれが、研修会で学んだ内容を資料とともに伝え、情報交換を行う機会を設けている。
園小の連携	豊かな自然を生かして地域に開かれ、小学校との連携にも積極的である。コロナ禍ではあるが、園児と児童との交流や職員の視察を受け入れ、情報交換する場を設けている。活動の振り返りや話し合う場面を設けることで、園児の自主性を育て、小学校での学びに向かう力の育成につながっている。
食育・アレルギー対応	アレルギー児については、医師が記入した生活管理指導表に基づいて保護者と相談の上で個別対応を行いっている。室温、湿度、温度に気をつけ、換気を常に行っている。夏場は特に暑くなるので、温度管理に特に気をつけ、コロナウイルス対策も含め、消毒は念入りに行っている。
関係者評価の取り組み	他者からの評価で見えてきた園の現状を大切に受け止め、保育に生かせるよう心がけている。今年度は、聞きとる力の弱さの手立てとして、話・ストーリーを楽しめるような読み聞かせ活動を重視している。

令和３年度西脇市就学前教育・保育の質の向上推進委員会　報告書

園名（　黒田庄こども園　）

	内容
教育課程の編成	小学校との連携を密にしながら、市の就学前教育・保育カリキュラムを柱に、本園の教育課程を編成している。市のカリキュラム研修に参加し理解を深めるとともに、年・月・週・日案の書き方や重点事項について幼児教育センターとともに見直しを行っている。
	自己評価の記入にあたり、各学年とも園児やクラスの実態を踏まえて、的確な視点で記述している。どのクラスにおいても積極的に取り組んでいること、チャレンジして頑張っていきたい所の記載とともに、複数のクラスで相談したいこと(★)が記載され、自園の良さ(強み)と課題をしっかり把握している。また、前期実施状況と後期実施状況を比べてみると、良さをより強みとして生かしていたり、新たな課題に気づいたりして、自己評価と改善のサイクルが適切に回っていることが感じられる。 全般的にどのクラスにおいても、保育の基本的な考え方である「環境を通して行う」という意識が浸透しており、発達に応じた環境づくり（環境構成）が工夫されている。既製品や手作りのものをバランスよく準備され、園児の興味や関心の広がりとともに、場や空間、動線を考慮されていた。 幼児については、園児の関心に合わせてごっこ遊びが常設されており、料理を作ったりするままごとだけでなく、バーベキューごっこや、キャンプごっこへの遊びの広がり、お店屋さんごっこ等が継続しながら発展していくように考えられている。その中で、豊かな感性と表現や協同性、思考力の芽生えなど「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が育まれていくような保育がなされている。 低年齢児クラスにおいては保育者との安心感・信頼感を土台にしながら、個々の園児の育ちとして、身体運動の発達、手指の発達、見立て遊び、つもり遊び等イメージしながら遊ぶことを促す保育が丁寧に行われていた。 今後に向けて、ドキュメンテーション等を活用した個々の園児の遊び心や発達を理解するような園内研修を通した、さらなる保育の質の向上を期待している。

安全管理・防災教育	避難確保計画の見直しを行い、地域や関係機関との連携を更に密にする計画を立てた。その年間計画に沿って、各月の訓練を実施している。また、バス運転手と職員合同の緊急時対応研修や、消防教室、不審者対応訓練等を実施することで、保育者の安全面の意識の高揚と、実践できる力を身につけている。
家庭・地域との連携	コロナ禍の中でも園の様子が保護者に伝わるよう、紙媒体での情報発信と、よい子ネットを中心としたＨＰやネット配信・メール等、こまめに発信している。また、地域の情報紙「黒田庄つうしん」を活用し、園での子どもたちの様子を伝え、地域に根差したこども園を目指している。
職員の資質の向上	オンライン研修に積極的に参加し、録画できる研修については、正規・非常勤を問わず多くの職員が研修できるように体制を整えている。今年度も、100の自己チェックリストを活用しながら、ＰＤＣＡや保育の振り返りを大切にし、資質向上に努めている。
園小の連携	黒田庄中学校区で、こども園と小学校としっかり連携されている。コロナ禍で十分な交流ができない中でも、小学校職員の見学をオープンにし、小学校のオープンスクールには園の職員が参加する等積極的である。また、音楽会の練習見学などを園児が就学前に体験することで、スムーズな接続につながるよう取り組んでいる。
食育・アレルギー対応	コロナ禍ではあるが、食のアンケートを継続的に実施し、親子で食について学ぶ機会を設けている。アレルギー疾患児については、医師の指示を重視し、保護者と相談しながら進めている。今後も、栄養士・調理師を中心に、担任・保護者の三者が連絡・連携を取りながら対応している。
関係者評価の取り組み	評議員や外部の監事等の評価や、食事や睡眠等、基本的生活習慣等の保護者アンケートを実施し、まとめを発信、啓発している。

令和３年度西脇市就学前教育・保育の質の向上推進委員会　報告書

園名（　しばざくら幼稚園　）

	内容
教育課程の編成	昨年度の取組について振り返り、コロナ禍でも園児の活動、経験が十分にできるよう、教育内容を工夫するとともに、「５領域」や「10の姿」の視点から園児の活動を意味づけする等、実践を振り返り、実態把握してカリキュラムの改善を図っている。
	３歳から５歳までの幼児期の保育について、５領域や10の姿を意識しながら資質能力を育てる実践がなされている。豊かな園庭環境と前山を活用し、園児一人一人の成長に資するように環境や活動内容が考えられている。３歳児は園児の安心・安定を重視した上で、存分に遊びに熱中できるような環境と個性に合わせた関わりを心がけている。３歳用園庭を十分に活用し、安心感のある環境で友達と関わりながら試したり感じたりする保育が行われている。４歳児は興味関心の広がりを支えつつ、園児同士で協力して遊びを創るように導いている。クラス全体に向けて意見を言える場があり、個々の遊びを追求しつつ、みんなで創ったり遊んだりする楽しさを味わっている。５歳児は特に小学校教育への連携や接続を意識し、思考力や表現力を伸ばすような活動内容と、話し合い活動を中心として協働性を育むような関わりがなされている。園庭での長期にわたる遊びでは、水と砂を存分に活用し、園児がアイデアを出し合いながら発展させていくのを、保育者が適切な提案やまとめを行いながら進めていた。また、前山での活動では、園児の主体性を存分に発揮できるよう、十分な時間を遊びにあて、そこから振り返っての話し合いが充実するような工夫がなされていた。保育者間の連携もよく、全体の活動の様子をドキュメンテーションやお便り等で、積極的に保護者をはじめとする外部に発信している。３年保育の強みを生かし、園児の育ちが積み上がっていくことを実感できる実践であった。 今後も、実績として蓄積した保育のあり方に関する知見をより分かりやすい形で他園や小学校と共有し、幼児教育のあるべき姿について広く浸透させるようご尽力いただきたい。

安全管理・防災教育	毎月の安全点検から改善が必要な所を市教委に報告の上、職員で共有している。様々な災害を想定し、毎月１回避難訓練を実施。職員の役割や避難経路等を再度確認することで、実際と防災マニュアルのズレを修正している。 訓練時刻や避難場所を園外に設定する等様々な状況や非常事態に備えられるように工夫している。
家庭・地域との連携	コロナ禍でも、保護者が園の様子を実際に参観する機会をできるだけもてるよう、参観日の方法を工夫するとともに、保育内容を伝えるドキュメンテーションを日々玄関に掲示した。各発達段階での活動や学びが分かるよう工夫し、園の教育方針が見えるよう保護者へ働きかけている。また、行事を利用し、園外に出かけ地域の人との交流を図るようにした。
職員の資質の向上	リモート等の研修会に参加し、職員間で意見を協議し合うなどして資質向上に努めている。「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」や「幼児教育において育みたい資質・能力について」の何を意識して保育を行ったかを振り返り、更に園内研修で子どもの活動写真を用い「10の姿」や「５領域」から意味づけを行い、次の実践に生かしている。
園小の連携	「10 の姿」と「５領域」を意識して、小学校へ円滑な接続ができるよう、教育内容の工夫が図られている。児童や生徒との交流の機会も設け、職員同士も公開保育や公開授業を通じて、実態把握と情報交換に努めている。西脇市としての課題でもあるスタートカリキュラム作成においても、重要な役割を担っている。
食育・アレルギー対応	一人一人の健康状態・特性を理解し、健康観察を行うとともに、コロナ禍において必要な知識について保健指導を通じて伝えている。アレルギー児について、年１回学校生活管理指導表を提出依頼し、主治医からの指示に沿いながら、家庭と連携しながら健康管理に努めている。マニュアルの変更がある場合、職員に周知し、共通理解を図っている。
関係者評価の取り組み	質の向上推進委員から受けたアドバイス、幼保交流研修（公開保育）、学期に１回の保護者アンケート、評議員会等の意見を大切に保育の改善を図っている。

令和３年度西脇市就学前教育・保育の質の向上推進委員会
特別支援　報告書

特別支援教育についての取組内容
各園において、集団生活で困難さがあるが家庭生活では特に問題がない園児について、参観機会がコロナ禍で減少していることもあり、保護者に園での困難さが伝わりにくい状況がある。また、保護者が困難さを感じていても支援を要求しない場合もあり、園内外で連携して保護者に寄り添いながら関わる必要性も感じる。 ３年間の視察訪問を通して、将来を見据えて気になる園児への支援の視点を園職員に伝えてきたことで、困難事例の相談だけでなく、将来を見据えた相談も増えてきている。保育者の早期対応により、本人・保護者の特性理解が少しずつ進むことを期待している。また、地域の小・中・高校生の困難事例を紹介する中で、幼少期からの関わり方の重要性も伝わりつつあると思われる。 重度障害児を受け入れている園では、障害の知識や理解を深めるとともに園と療育機関や児童発達支援事業（福祉サービス）併用時の利用量調整や情報共有のための関係機関での役割分担と連携を進めている。 サポートファイルを預かっている園に関しては、活用方法や記入の仕方の相談が増えている。記入経験者が徐々に増えてきているため、更なる園内共有や理解浸透が期待される。 今年度は視察訪問と別途依頼のあった園の相談も受け、園職員の意欲を感じる。 **《子どもの特性や障害に応じた取組について》** １．実態把握をするための取組 【担任・園ができること】 ①担任を中心とした行動観察し、記録を取る。 ②保護者から家庭での様子聞き取りを行う。これらの取組のため必要に応じて、人員や場所(環境を整える等)確保のための協力体制を取る。 【外部関係機関と協力してできること】 ①医療や福祉(児童発達支援事業所)での発達検査・診断・療育に繋げる ②市の巡回相談の活用をする。 ２．連携について 【園内での連携】 ①職員間で定例会議や日々の活動の中で情報共有を意識する。 ②保護者とは、送迎時や必要に応じて個別懇談での情報共有を行う。また、通信等で活動や有効な支援の様子を伝える。

【外部関係機関との連携】

①医療や福祉(児童発達支援事業所)と療育について保護者の承諾を得て、園として直接連携を行う。保護者を介して間接的に関わるだけでなく、保護者と共に対応を学びたいという姿勢が大切になる。

②西脇市（こども福祉課）や兵庫県(家庭センター)と家庭支援のための役割分担や協力体制の構築を行う。

３．連携のツール（サポートファイル）について

①保護者に特性理解のためのサポートファイル作成案内を行う。特に小学校への就学に向けて早期支援での２次障害予防の観点からの理解を勧める。

②支援者として本人・保護者が活用しやすい内容を意識しながら作成をする。